

# 宿縁

十一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗  
本願寺派 **中原寺**

TEL 〇四七―三七二―〇二九二  
FAX 〇四七―三七二―〇二六二

## 称名念仏

### すべきものなり



昨今は人と話すのが苦手、人と会うのが怖いという若者が増えているといえます。

直接会話や面談をしなくても用事がすませられるインターネットの時代だからでしょうか。それにしても何かが違うし異常を感じる時代であることは事実です。だから顔色を見ることもなくなつたし、言葉の必要性もなくなり退化するというのでしょうか。

先端医療の大病院で、いよいよ臨終を迎える患者さんが、機械ばかりを見ている医師に「先生、私の方を見てください」と訴えた

という話を聞いたことがあります。冗談ではなくそれが悲しい現実のようです。

大人も子供も引きこもる時代になってしまいました。孤独や孤立はますます自我の硬い殻を強めていくばかりです。

人間は、仏法の上でよくどんぐりの実にとえられます。どんぐりは親木から離れて落ちると、どんぐり自身で硬い殻を破ることはできません。そして小さな殻の世界だけしか見えませんから外の世界を知りません。どんぐりの実は右から風が吹けば左へ、左から風が吹けば右へころころと流され続けて決して自ら発芽し大地に根付くことができません。

そのように人間も小さな殻の中に生きていく自分のすがたに気づくには大きな世界からの光と水、つまり阿弥陀仏の光明と慈悲のはたらき(お育て)に遇わねば小さな殻を打ち破って大きな世界に出ることができません。

「ただ仏法は聴聞に極まることなり」との蓮如上人のお言葉があります。硬い石を軟らかい水がやがては貫き通す如くに、心がしつかりしていれば必ず仏のさとりを得られるように、仏の教えを説く人の話を聞くことが仏法であり、南無阿弥陀仏のいわれを正しく聞き開いたことが信心(仏の大地に樹つ)であるといわれています。

仏の教えは人を通して語られます。その

人とは、念仏の教えを勧め導く人で「善知識(ぜんちしき)」といえます。ですから説法の場で人と面談し人の話を聞くということは仏道においてとても大切な過程なのです。

蓮如上人は「五重の義(ごじゅうのぎ)」といつて信心を得る因縁として五つの由来を示しました。一つには宿善(しゅくぜん)で、過去世に積んだ功德のたね。二つには善知識。三つには光明(阿弥陀仏のお照らし)。四つには信心(阿弥陀仏の光に遇って知らされる真実の心)、五つには名号(阿弥陀仏の吾を喚ぶ声に応答する念仏の声)。

さらには、七高僧の善導大師はさとりの世界(お浄土)に生まれる実践行として五正行(ごしょうぎょう)を示され、読誦(どくじゆ)、観察(かんざつ)、礼拝(らいはい)、称名(しょうみやう)、讚嘆供養(さんたんだんくよう)の五つの行いをあげています。そしてこの中で四つ目の称名こそが最も正しい行いであるとされています。この意味を現代風に解釈すれば、読誦とは仏教書を読むこと。観察とは人間を超えた大いなる世界を憶うこと。礼拝は仏さまを拝むこと。讚嘆供養とはお花や香を供えることといえます。私たちの日常においてこの五つの行いで最も難しいのは称名念仏であると思えてなりません。「なんまんだぶつ」とお念仏申すことは最もた易い行為でありながら現実はこの声が開いてまいりません。

親鸞聖人は正信偈に「本願名号正定業(ほんがんみょうごうしょうじょうごう)」と、はつきりおっしゃっています。名号は南無阿弥陀仏は仏の名前でなしに、仏のはたらきかけそのものです。大いなるものが南無阿弥陀

仏となつて真実に帰れ、来たれ、共にあれと呼びかけてくるのです。それが吾に届いて、私の思いで何とか生きられるという小さな殻が破られてくる。その時、大いなるものに対する答を応答といえます。呼びかけに対する答、向こうから私の胸を叩くのに対する私の答を南無阿弥陀仏といひ、それを称名念仏といふのです。これは呪文でもなければ、わけのわからない言葉でもありません。

ただ単にならなえているのではなく人の真似事でもありません。それは阿弥陀仏の本願、大きなものの願いを本当に聞き開いた時に私がそれに応答せずにはいられないもの、それを称名念仏といひます。これが南無阿弥陀仏です。従つて南無阿弥陀仏という称名念仏がわが口から出るようになることこそ親鸞聖人の世界に入ることであり、大きなものにふれていく歩みなのです。

浄土真宗 広く申して仏教が他の教とどこが違うかという点、南無阿弥陀仏と念仏申すというところが一番の違いです。南無阿弥陀仏は本願(必ず大きな広い真実の世界に生まれさせる)の名告りです。呼びかけです。それが私に届いて遂にそれに答える身となる。そこに殻が破れて大きなものがどんぐりにおいて成立し、発芽していくという事実が生まれるのです。そこに仏教本来の目的である自閉的なものが打ち砕かれて大きな世界に心開いていく。本当の認識の上に立つということが成り立つのです。南無阿弥陀仏と念仏申す身となるというところに仏教があるのです。祈る宗教や願う宗教はありますが、南無阿弥陀仏という宗教は、人が真に独立する道であり、仏教の大道であります。

【第27回文化講演会アンケート】

10月24日に山崎製パン企業年金基金  
会館を会場に第27回中原寺文化講演会が  
開催されました。

講師には障害児教育一筋に活動されてい  
る元奈良大学講師、NPOかかしの会理事長  
向野幾世さんを迎え、「お母さんぼくが生ま  
れてごめんさい」の演題でご講演いただき  
ました。

およそ200名の来場者は、障害者として  
生きる本人や家族の困難な中にも「優しさこ  
そが大切に悲しさが美しい」との心のあ  
りようを聞き大きな感動を得ました。

左記に、いただいたアンケートの感想の一  
部を掲載します。

◇障害者も健全者も同じ人間、同じ命。人  
を良くも悪くもするのは周りに生きる人  
が作り出す環境かと：私はいつも思う。人  
を悪く言うのは簡単、悪い所を見つけるの  
は簡単。良い所を見つけ出す、良い所を見  
付けてあげる事のできる母であり人でい  
たいと思ひ直す事のできる講演でした。

(40代女性)

◇とても素晴らしく、とても暖かい時を持  
たせて戴きありがとうございます。私は  
先生にTVの全国版で今日の話を日本国  
中にお聞かせ願いたく存じます。(苦しい  
事)甘えがあるから、(辛い事)感謝を知らぬ  
から。成功でなく、失敗、過ちが(その後  
の人生に大きいという事)。本当に勉強に  
なりました。ヨルダンにも行かれています  
が、これからも国内のみならず国際的にも  
頑張られてください。

(60代男性)

◇胸がしめつけられる思いでお聞かせ頂  
きました。「肝ぐりき」を心に抱き生きて  
まいります。

(70代女性)

◇本日の先生のお話、大変なつかしく、  
とても心に響きました。奈良の「わたぼ  
うしコンサート」のお話の事も心に残り  
ました。

(50代男性)

◇40年程前に近所に重度の障害の子供  
がいて、お互い協力しながら深いコミュ  
ニケーションが持っていた時代を想い出  
させて頂き有難うございました。

(70代女性)

◇障害のある方のヘルパーをしていま  
す。先生のお話をお聞きして、あらため  
てしっかりとヘルプしなければと思いま  
した。

(60代女性)

◇とても身にしみる内容でした。かとい  
って重くなりすぎない話し方で、終始聞  
き入ってしまいました。

(30代男性)

◇考えさせられる内容でした。知らない  
世界に触れることができました。今日は  
お話を聞いて良かったと思います。あり  
ありがとうございます。

(20代女性)

◇一人一人の一生はそれぞれの人生があ  
ります。しかしこの世に生まれた以上一  
日一日に感謝で生きて行かねばならな  
い。まして五体満足なら最高、自分ばか  
りの我儘を通さず、苦しんでいる人の心  
に寄り添ってあげたいと思いました。

(60代女性)

【寺灯雑記】

○お仏具磨きに奉仕

11/7

年2回恒例の本堂お荘厳仏具のお磨きに  
30人ほどの方々がご奉仕下さいました。

また午後からは婦人会、壮年会の合同法座  
がありご住職より法話をいただいた後、近く  
の店に移動してカラオケを楽しみました。

○築地本願寺で帰敬式を受式

11/15

今年も11月11日より16日まで築地  
本願寺の報恩講法要が勤められましたが、前  
門様ご親修の15日に行われた帰敬式(おか  
みそり)で当寺から左記の5名の方が受式さ  
れました。

\*尾崎文子さん \*武田守さん

\*武田八重子さん \*松本修さん

\*和田文子さん

本堂内の厳肅な雰囲気は漂う中、およそ1  
00名の受式者を代表して当寺門徒・松本修  
さんが尊前で帰敬文(きききょうもん)を読み  
上げ真宗門徒として生きる誓いを致しまし  
た。

そして大谷光真前門主から一人ひとりの  
頭にお剃刀が授けられ法名を授与されまし  
た。おめでとうございました。

○築地本願寺報恩講に団体参拝

11/16

築地本願寺の報恩講最終日の満日中法要  
に当寺から18名が団体参拝を致しました。  
前門主のご導師のもと、東京教区内寺院僧侶  
が出仕して壮麗な雅楽の奏でる「報恩講作  
法」で修行されました。  
またこの法要で東京教区僧侶の総代表焼

香として当寺前住さんが選ばれ、威儀をつけ  
て前門様ご代香として中尊前、祖師前にお焼  
香いたしました。

○特養ホーム「あそか園」から御礼

11/10

婦人会のボランティア活動をしている「あ  
そか園」に沢山のビニール袋を届けました。

【☆報恩講法要修行の日程】

\*十一月二十日(金)

・親鸞聖人を讃える音楽の夕べ 夕方五時  
(浦和最勝寺コーラスの皆さま)

・法要「初夜礼讃」 五時四十分

・法話「念仏と信心」① 六時半

・おとぎ(あずき粥接待)

\*十一月二十一日(土)

・「晨朝」「正信偈」 朝六時半

・日中法要「讚仏偈」 十一時

・法話「念仏と信心」② 十一時二十分

・おとぎ(精進料理接待) 正午

・満座法要「正信偈」 一時

・法話「念仏と信心」③ 二時

講師：滋賀県報恩寺住職 藤實無極師

【法座・行事案内】

○いのちの居場所を考える会

十一月二十六日 十時半

○和讃に学ぶ 十一月二十八日 三時

○婦人会法座 十二月五日 一時

○門信徒会役員会 十二月五日 三時半

○壮年会法座と年末懇親会

十二月二十日 三時

【十一月の掲示板のことば】

帰る処がないと 不安で根っこが張れない